

江南市まちづくり会議（分野別会議） 議事要旨

会議名	平成24年度第3回 第1分科会（生活環境、産業分野）
日時	平成24年11月7日（水） 午前9時30分～正午
場所	江南市役所 3階 第4委員会室
出席者	市民委員 後藤 俊夫、宮川 秀男、望月 晴夫、岩井 喜美子、松本 千賀子
	市職員 米田 隆彦、小塚 昌宏、大藪 勝寛、伊藤 幸実、水野 修、古田 勝己
議題	1. 前回の議事要旨について 2. 施策評価の結果について
資料	第2回まちづくり会議 議事要旨

◆ 会議結果 ◆

1. 前回の議事要旨について

- ・資料の確認と併せて、前回の会議で質問のあった消防団についての詳しい説明がありました。
- ・消防団員の平均年齢は38歳であり、消防団員の充足率については100%であり、近隣の一宮市や大口町と比較して高いものの、車両台数・可住地面積から算出される基準数には届いていないとの説明がありました。

2. 施策評価の結果について

〔柱4〕生活産業の活性化・雇用就労と商工農業の振興

- ・資料2に基づき、委員（産業振興課長）より説明がありました。

〔施策①〕商工業の活性化

- ・企業誘致できる場所について質問があり、かつては和田の工業団地などがあったが、現在まとまった大規模な敷地はないとの説明がありました。
- ・製造業は円高でどこも厳しいものの、土岐市では大型商業施設のアウトレットモールが若者で賑わっており、ファッションやグルメなどで商店街を活性化してはどうかとの意見がありました。
- ・商店街が店を閉めていく一方で、デイサービス施設やその送迎車が増えているように感じるとの意見がありました。
- ・商工業の活性化について、名古屋市から電車で20分という、名古屋市内でいえば東山に相当する地の利を活かして、既成概念にとらわれずに抜本的に変えていかないといけないとの意見がありました。
- ・江南市は企業も少なく財政的に厳しいので、このままではいけないという発想で、少ない予算でどうやっていくか、目標を数値化して少しずつ近づけていこうと戦略計画を策定した経緯があり、抜本的な提案といっても現実には難しいとの意見がありました。

〔施策④〕農業用施設の適正管理と農業の安定経営のための支援

- ・団塊の世代が退職して、農業を始める人もいるが、市民菜園の区画面積がやや狭いのではないかと意見があり、市民菜園には16㎡と100㎡の2種類の区画があり、100㎡の区画も徐々に増えているとの説明がありました。
- ・農家の人は、高齢化に伴い体力的にも厳しく、農地を売ることも難しいため、従事者の育成を支援していくとともに、農協だけでなく商社などを通して農産物を売ることを考えてはどうかとの意見に対し、実際に和田町で農業法人がトマト栽培を始めようとしているケースもあるとの説明がありました。

- ・市民菜園を市外の人にも開放し、長靴や農機具なども用意しておけば、名古屋のマンションに住んでいる人でも農作業ができるため、耕作放棄地の対策や市の活性化にも繋がるとの意見がありました。

【施策⑤】 観光事業の推進

- ・11月5日に開催された布袋の街歩きイベントについて、昨年度は第1回ということもあり来場者が少なかったが、今年は非常に多くの人で賑わっていたとの意見がありました。
- ・布袋はかつて丹羽郡の中心地として栄えたこともあり、由緒あるものがたくさんあるが、知っていてもどこに何があるかまではなかなか分からず、イベントでは、ガイドさんが手作りのもので説明をしていたが、せめてその場所に解説などを書いた「案内看板」をもっと増やせないかとの意見がありました。
- ・尾北ホームニュースにも掲載され来場者は増えたが、まだまだ地元の知り合いが多く、今後は、名鉄とタイアップして市外の人を呼び込むなどの工夫が必要ではないかとの意見がありました。

【柱5】 自然と調和した快適な生活環境の確保

【柱6】 ごみ減量と適切な処理の推進

- ・資料2に基づき、委員（環境課長）より説明がありました。

【施策①】 ごみ減量と再利用の促進

- ・リサイクル率など実績値が把握できていないものについて、月別の集計などで日々の積み重ねをいつでもチェックできるように取り組んでいく姿勢が大事であるとの意見がありました。
- ・広報や回覧の啓発だけでは、見ない人も多いので効果が薄いとの意見がありました。
- ・広報の問題については、全ての分野に共通することであり、「関心のあるところは読んでいるが、人によってニーズが異なる」、「月2回から月1回の発行になってページが増えた」などの意見がありました。
- ・また、毎回同じ団体・人の記事が掲載されていることがあり、もっといろいろな人の多様な声を載せられないかとの意見がありました。
- ・江南市の分別方法は他の自治体と比べて厳しいのかとの質問があり、29品目の分別を行っており、近隣ではだいたい同じであるが、近隣以外と比べると分別の種類は多いとの説明がありました。
- ・江南市では、ごみを分別することによりリサイクルできるとともに、可燃ごみも減り、焼却場の延命にも繋がるとの考え方で、平成10年2月から57（こうなん）運動を進めてきており、リサイクル率も県内トップクラスであるとの説明がありました。
- ・単身の転入者が増えて、分別せず可燃ごみの中に衣料品が入っていたこともあり、転入手続きの際にPRしてはどうかとの意見に対し、転入届を提出の際、窓口でごみカレンダーを渡すとともに、アパートの貸主にもごみの出し方について市から説明するようにしているとの説明がありました。
- ・今年度は剪定枝の分別方法が変更されたこともあり、年2回、職員が集積場所へ巡回し、現地指導も行っているとの説明がありました。
- ・せっかく分別したごみを勝手に持っていく人がいるとの意見に対して、現在、罰則を含め条例制定に向けて検討しているとの説明がありました。